

# 西東京市の女性の聞き書き集 2010

いのちと知恵をつなぎ  
暮らしから社会を変えた女たち



西東京市の公園

「西東京市の女性史を振り返る」  
「いのちと知恵をつなぎ 暮らしから社会を変えた女たち」  
「西東京市の女性史を振り返る」

西東京市の女性の聞き書き集 | いのちと知恵をつなぎ 暮らしから社会を変えた女たち |

西東京市の女性史を振り返る

## 西東京市 第2次男女平等参画推進計画

日本国憲法で個人の尊厳と法の下の平等がうたわれ、各種の法制度は男性と女性に平等になってきましたが、人びとの意識や制度、制度や慣習の中には、国家的な意識や男女の役割を定めたものが、今なお残っており、女性にもより男性にも生きにくい社会になっています。

また、少子高齢化の急速な進展や家族形態の多様化、グローバル化の進展など、国や社会の大きな変化により、新しい課題が生じており、従来の制度では対応できない状況も生じています。社会や地域が今後も活力を維持し、発展していくためには、性別や年齢にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することが大変重要です。

西東京市が今後も平和で暮らしやすいまちとなるため、第1次計画もふまえて、男女平等参画社会の構築をめざして、市民と行政がともに積極的に取り組む第2次男女平等参画推進計画を策定します。

### 【目的】

一人ひとりが自分らしく自立し  
いきていく個性と能力を豊かにする社会をめざす

私たちは、男女が性別により差別されることなく、人間を尊重する社会をめざします。  
私たちは、自分の個性と責任により、自らの生き方の中から自分らしい生活を実現することができる社会をめざします。  
私たちは、子育てや介護、その他多様な生活に、男女が対等に立脚で参画し、ともに責任を担う社会をめざします。  
私たちは、仕事や地域活動などの社会生活に、男女が対等に立脚で参画し、責任を分かち合う社会をめざします。

- この計画は、本が行う男女平等参画推進の基本方針を示すと同時に、男女平等参画社会の実現のための目標・課題の取組方針を明確にし取り決めた、その構築を推進することを目的とするものです。
- この計画は、実施の期間に本市基本理念をのびつ、2009(平成21)年度～2015(平成27)年度までの5年間の長期的取組の軌跡を記したものです。

### 西東京市の男女平等参画推進センター パブリック情報センター

- 性別平等
- 男女平等参画推進センター：男性
- パブリック情報センター：女性
- パブリック情報センター：若者
- 子育て支援センターで参画するお母さんたち
- 介護参画センターで参画するお母さんたち

参画推進センター  
TEL 042-435-0015  
西東京市役所5F入り口

- 編 集：西東京市の女性史を振り返る会
- 発 行：特定非営利活動法人 生活企画ジェフリー

※この冊子は西東京市NPO等企業連携事業として市の補助金をもとに発行しました。

## 発刊にあたって

西東京市の女性史を編さんする会

ここに念願の「西東京市の女性史聞き書き集」を発刊でき、肩の荷がおりた思いです。なぜなら、NPO法人生活企画ジェフリーは、活動の足跡を記録しておきたい旧田無・保谷の女性たちが高齢化してきたことに加え、積み重ねてきた記録・資料が両市の合併でどのように扱われるのかも心配し、聞き書き集の発刊は喫緊の課題と感じていたからです。しかし行政に地域女性史編さんの動きはみえない。それなら、と一念発起、市民の手でつくることにしたのです。

本事業は構想に一年、実施から二年を経て完成しましたが（二〇四ページ参照）、本書の役割は、西東京市に暮らしてきた女性たちの生き方を記録することでこのまちや社会がどう動いてきたかを浮かびあがらせることにあります。加えて、埋もれた女性史の鉱脈を掘り起こすことにより、まちの歴史は表舞台に登場してきた一部の人たちだけがつくったものではなく、暮らしを守ってきた市民（女性）の底支えがあったことをご理解いただけるのではないかと思います。

「西東京市の女性史を編さんする会」のメンバーは情熱をもって編さん作業を進めてきました。しかし主役は聞き取りにご登場くださった話し手の女性たちに他なりません。最初は躊躇されながらも、時を重ね、信頼という絆で結ばれはじめると堰をきったように率直に自身の歴史を語ってくださいました。私たちは心の底からありがたいと思えました。それなのに、話し手の方々からは「お疲れさま」「感謝します」等々の言葉をいっばいいただきました。互いを尊重し合い、慈しみ合える安心感のなかで活動できた幸せを今、感じています。

本書には他の聞き書き集にはない特徴が三つあります。①NPO法人による企画とそれに応えた行政の協働でつくられた聞き書き集は全国的にみてもおそらく初めてではないかと思えます。②年表は、歴史事項の記述だけに終わらせず、聞き書きとの連動性や暮らし・社会全般からの多角的解説を付し、読み物としても楽しめるよう工夫しました。また、③男女平等参画施策の推進を願う行政の関連情報も提示しました。まちに暮らす一人ひとりの歩みが歴史をつくっていくことを示したこの女性たちの聞き書き集は、世代を超えて多くの市民に共感していただけるものと確信しています。

最後に、本書の聞き書きは語り手お一人おひとりの生き方や生活の歴史がいきいきと読者に伝わることを願って、できるだけ話者の語り口を忠実に書き起こし編集したことをご理解のうえお読みいただけたらうれしく思います。

## 発刊に寄せて

西東京市長 坂口 光治

「西東京市の女性の聞き書き集―いのちと知恵をつなぎ、暮らしから社会を変えた女たち―」の発刊を心からお祝い申し上げます。

この地域女性史編さん事業は、NPO法人生活企画ジェフリー主催「女性史編さんでひらく男女平等のまちづくり―暮らしから社会を変える―」として、平成二二年度より本市の「NPO等企画提案事業」として取り組まれているものです。これまで、まちづくりに参画しながらも表舞台に登場することの少なかった女性たちの暮らしや活動に焦点をあて、聞き書きによって掘り起こし、取りまとめるというもので、男女平等参画社会の推進、活動を通じた市民参画の楽しさの醸成など、幅広い効果が期待できるものです。昨年度発足した「西東京市の女性史を編さんする会」による聞き書き作業を経て、本年度は石崎昇子氏の監修による編集作業を進めてきたと聞き及んでおりますが、関係者の皆様におかれましては、他に類のない新たな試みゆえのご苦労が多々あったことと存じます。

今回の編さんで取り上げさせていただいた方々の生きざまを通して、地域活動における女性の存在の大きさ、重要さを改めて理解するところです。今後、第二集発行も視野に編さん活動を継続すると伺っておりますが、これまでの活動で培った人的ネットワークを生かした市民活動として益々発展していくことを、さらには、今回の取りまとめが男女平等参画社会の推進に大きく寄与していくことを願うところです。結びに、関係者の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念し、私からの挨拶といたします。

平成二二年 八月



## NPO法人と市民がつくった聞き書き集

監修者 石崎 昇子

NPO法人生活企画ジェフリーの企画により平成二二年早々に始まった「西東京市の女性の聞き書き集」編さんが、市民の参加も得てここに実を結んだ。

県や市や区など自治体単位の「女性史聞き書き集」の刊行はすでに多く試みられているが、女性政策をとる行政主導の企画がほとんどのなか、NPO法人による企画とそれに応えた行政の協働によって創られたこの冊子は、全国的にみておそらく初めてのものだろう。

生活企画ジェフリーは女と男の今と未来の応援団として発足したNPO法人、この地域の町づくりに貢献しつつも埋もれたままの女性たちの歴史を掘り起こし、今を考え、未来に伝えるべく女性史編さん講座を開催し、市民参加者を募集して編さんする会を立ち上げた。そして、市民参加者と協力し合って二年余り、地域を這うような活動を続けて本冊子の刊行に至った。

西東京市は平成一三年に旧田無市と旧保谷市が合併した住民自治の強い小さな市だが、田無地域、保谷地域とともに近郊農村宿場町として江戸時代以来の歴史をもち、昭和になって住宅地として発展した町だ。この間につらい戦争があり空襲があり敗戦があり、戦後改革の大きなうねりと高度経済成長のなかで変わっていった女性たちの暮らしや生き方の変化がここには記録されている。しかし、その変化はしぜんになされたものではない。戦後の生活の激しい変化に対応して平和を願い、迷いながらも決断し、悩みながら行動をおこし、いのちと心をつないだここに住む女たちの社会参加によってなすとげられたものだ。

この変化の様相は、今を生き、これからを生きる私たちに勇気と力を与えてくれる。編さん者たちは先輩女性たちのそのあゆみを伝えようとこの冊子を刊行した。編さんの思いが伝わったことを、監修者として、共に喜びたい。

(女性史研究者・武蔵野大学非常勤講師)

平成二二年 盛夏



田無地区北

尾林セキ 農家に嫁ぎ、そして番台に座って四五年―男所帯に嫁にきて、わたしは大黒柱……………10

土井安代 全国自治体初の「男性職員にも育児時間」を条例化に―市長を追って直談判……………14

白井智子 初代女性議長の原点は戦争と国鉄―議会では、大学へいったほどの勉強を！……………18

小峰喜和子 総持寺「大日堂齋場」はわたしの発案―寺に生まれ、寺に嫁いで……………22

幸谷秀子 障害者の居場所を求めて―息子とともに歩んだ日々……………26

権正順 在日コリアンとしての誇りをもって―BC級戦犯にされた夫とともに……………30

野島照代 老舗料理屋の看板を背負って―嫁は働く機械みたいだった……………34

田無地区南

野本ふじ 婦人会から田無町初の女性議員に―社会福祉協議会 初代事務局長も一四年……………38

杉本リン子 公民館「婦人学級」の一期生―職場の待遇改善にも一肌ぬいで……………42

岸みよし PTA活動で目覚めたのかな―公民館を拠点に学び続けた人生……………46

矢ヶ崎タカ 農家に生きて八〇余年―戦争中は大変だったね。戦後の公民館活動は楽しかった……………50

山辺静枝 フォークダンスで地域を元気に―今も現役、研鑽の日々……………54

落合ヒデ いろいろやってきたけど、根っこは一つ―命を傷つけないこと……………58

村山悦子 柳橋保育園と歩んだ三五年―「とねりこの家」で地域に生きる……………62

保谷地区

秋山喜代子 母の支えで続けられた教師生活―気負わず、力まず……………66

岡山ハマ子 農協に婦人部ができてよかった―頑張ってきたの。農家の長女として、嫁として……………70

都丸泰江 わたしは市議で、夫は市長―地域に根づく活動は途切れることなく……………74

佐藤桂子 『どんぐり』はわたしの大学―戦争体験を原点に、平和と平等を願って……………78

濱松祥江 ボランティアで交流。元気になれる―地域はとても大事だと思えます……………82

増田法子 ろうけつ染も郷土史保存も、信じた道を一直線―自分の人生、楽しく生きたいですね……………86

椿鈴江・坂本京子 「ひばりが丘団地」に暮らして五〇年―新生「ひばりが丘パークヒルズ」へ……………90

発刊にあたって……………3

市長のことば……………4

監修者のことば……………5

凡例……………8

活動報告……………

## 第二章 語り継ぎたい女性たち

山川菊栄とともに 婦人問題懇話会 初代事務局長の菅谷直子さん  
『どんぐり』を三四年間発行した鳥海志げ子さん  
わが家をグループホームに 地域の高齢者福祉に尽した阿部千寿子さん  
地域の人びとを紡ぐために尽力した植木慧子さん

■長瀬由美子 …………… 96  
■齋藤三枝子 …………… 98  
■安岡厚子 …………… 100  
■神島由紀子 …………… 102

## 第三章 年表・参考文献など

年表 女性とまちの動き ……………	106
参考文献・資料一覧 ……………	114
編さんを終えて メンバーの感想 ……	118
皆さまに感謝 協力者一覧 ……………	120
あとがき ……………	121

### 茨木のり子

#### 自分の感受性くらい

ばさばさに乾いてゆく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておいて

気難かしくなってきたのを  
友人のせいにはするな  
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを  
近親のせいにはするな  
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを  
暮しのせいにはするな  
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を  
時代のせいにはするな  
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい  
自分で守れ  
ばかものよ

- 詩人・茨木のりさんは30余年、西東京市東伏見に暮らしていました。戦争への怒りや命の尊さを力強く、また、女性の自立を明るくうたい上げた詩は2006年の没後も多くの人を魅了しています。享年79。  
・大岡信・谷川俊太郎編集『現代の詩人7 茨木のり子』中央公論社、1983年より

## 『西東京市の女性の聞き書き集』活動報告

### 平成 20 (2008) 年度：本事業開始 1 年前

- NPO 法人生活企画ジェフリー総会にて地域女性史編さん事業計画を承認 (5 月)
- 西東京市 NPO 等企画提案事業に応募準備のため、協働の男女平等推進係や提案事業担当の企画政策課と意見交換開始……申請事項検討 (6 月)
- 学習・情報収集開始 (6 月～)  
他市の地域女性史学習会に参加したり、講師予定者の著作を読み合う  
田無・保谷の女性に関わる情報調べ、年表作成にとりかかる  
国立女性教育会館主催「女性のキャリア形成支援推進研修」参加 (10 月)
- 提案事業の企画案をより有効に展開するための検証を重ねる＝スタッフ会議 (月 2 回)
- 懇談会開催：広く情報集めを行った。団体・機関の女性部や福祉関係・個人等々
- 「ジェフリー通信」発行：広く市民に女性史編さんの機運醸成のための情報提供
- イベント参加：女性史講座受講や編さんへの PR 開始  
西東京市消費生活展実行委員会参加：パネル展示「地域ミニコミ紙 どんぐりの歴史」(10 月)  
西東京市男女平等推進センター「パリテまつり」実行委員会参加：パネル展示 (2009 年 2 月)
- 女性史編さんでひらく男女平等のまちづくり—暮らしから社会を変える—西東京市 NPO 等企画提案事業採択 (11 月)
- 「女性史編さん講座」開催準備：講師と打合せおよび広報活動計画

### 平成 21 (2009) 年度：本事業 1 年目

- 懇談会開催：前年度に引き続き情報収集のため各種団体・個人からお話を聞いた (4 月～7 月)
- 「女性史編さん講座 全 4 回」開催 (講師 折井美耶子・石崎昇子さん) (6 月～7 月)  
広報活動：チラシ・ポスター印刷・配布。市報ほか新聞各社に掲載依頼。講師依頼・打合せ
- 西東京市の女性史を編さんする会立ち上げ (7 月)  
講座受講市民とともに計 12 名でスタート  
聞き書き話者の選択、手順ほかあらゆる事項を月 2 回の例会で話し合い進めた
- 学習会開催：編さんする会メンバーの希望で民間研究者 (近辻喜一さん) を講師に田無・保谷のまちの歴史を学んだ
- 聞き取り開始 (7 月) → 22 人 21 話のテープ起こし → 原稿・意見交換 → 最終稿：話者に確認・承諾  
上記の作業は何度もいいねいに繰り返し、話者から掲載の承諾をいただくまで、ほぼ 1 年をかけた
- 「会 活動だより」発行：毎例会情報の共有と仲間づくりに貢献している。編集担当歴代 3 人
- 「ジェフリー通信」発行：聞き書き作業紹介、話者との交流情報を広く市民に提供：次年度も続いた
- ホームページ掲載：講座風景・講座報告書などアップ：逐次更新。次年度も続いた
- イベント参加：あらゆる機会を利用し、聞き書き集編さんの PR を行った：次年度も引き続き参加  
西東京市消費生活展実行委員参加：パネル展示「写真でつづる田無・保谷」  
西東京市男女平等推進センターパリテまつり実行委員参加：「写真でつづる女性史編さん講座」  
ゆめこらぼ「NPO 市民フェスティバル」参加 (2010 年 3 月)
- 西東京市 NPO 等企画提案事業の次年度継続が採択

### 平成 22 (2010) 年度：本事業 2 年目

- 聞き書き集刊行にむけた、作業を積み重ね……本冊子発行  
昨年度に続き、聞き書き原稿のまとめと話者との交流を密に行い、互いの信頼関係を構築していった  
編集に際しては、さまざまな角度から市民に興味をもって読んでいただけるよう工夫した  
また、地域女性史の位置づけと女性問題の扱い方などの課題は、その都度話し合い、共通認識をもって進めてきた  
聞き書き話者との交流・連絡はできるだけ密に、ていねいに心をかけた
- 監修に石崎昇子さん：女性史研究者としての専門的見地とご経験からの有益な助言をいただいた
- 研究会参加：第 11 回全国女性史研究交流のつどい in 東京に参加 (9 月 4・5 日)。他市の活動から学ぶこと多し
- 協働：女性問題学習に長く携わってきた専門性ある職員との協働の効果大 (関係課長の支援・協力があってできた)
- 交流・親睦：編さんの厳しい作業だけでなく、話者との日常的交流やメンバー同士の茶会など親睦も深まった
- 年表作成：男女平等参画社会の推進の思いを込めたもので、今までにない表現方法を用いた
- 広報：冊子発行後は、メディア等に広く PR
- 講座：パリテまつり「西東京市の女性史編さんの意義と楽しさ—一次はあなたも編集者—」開催予定 (2011 年 2 月)
- ゆめこらぼ「NPO 市民フェスティバル」参加 (2011 年 2 月) 予定

### 平成 23 (2011) 年度予定

聞き書き集の発行をスタートに、西東京市女性史研究会を立ち上げ、本事業の主催者生活企画ジェフリーから独立した自主団体として、地域女性史の研究を長期的・継続的に行い、西東京市の男女平等施策の推進に寄与したいと考える

## 編さんを終えて

# 西東京市の女性史を編さんする会 メンバーの感想

### ●編さんを終えて

第2次大戦を潜り抜け懸命に生きてこられた人生の先輩たちは、面識のない私たちに長い道のりを率直に語ってくださいました。その生き方の力強さ、健気さ、一生懸命さに私たちはどんなに感動し、共感し、胸を詰まらせたことでしょう。しかし、楽しかったこと、うれしかったこと、苦しかったこと、頑張ったこと……さまざまな思い出に伴って、封印したはずの出来事も否応なく甦ったのではないのでしょうか。自らの人生を語ることで、それは想像以上に勇気や決断のいることではなかったかと思うのです。

今、そのようなお一人おひとりのかけがえない人生の一端に2年間寄り添わせていただいた幸せを感じています。そして、激動の昭和の歴史も、お話しと共有したかのような不思議な実感をもって、改めて認識できたように思います。お会いしたすべての方々、そして編さんに関わった素晴らしい仲間たちに心から感謝です。

〈齋藤三枝子〉

### ●編さんを終えて

聞き書き人という初対面の闖入者に、ご自身のかけがえない過去を思い起こし、生き生きとお話しいただいた。そのなかでも「母のようになりたくない」との思春期の目覚め、やはり東京で自立したい意欲を実践してこられた熱情に胸を打たれた。家父長制への反発をひそめた戦中、敗戦、復興期の生活苦と、勉学・諸資格取得そして就職、結婚後も職場や地域社会の改善に取り組んでおられる。定年退職は次の仕事の区切りに過ぎないと。それにしても、首都圏の農・商混在のベッドタウンの田無・保谷に來住された話者が多かったこと、また聞き手のほとんども來住者であった現実に驚いた。世代的に自分の兄妹と重なり経験を再認識し共感しながら聞き入った。

〈川原嘉寿〉

### ●共同作業の楽しさ

直接お会いしてお話しをうかがい、原稿作成まで関わったのはお一人でしたが、ほか数名の方のお話しのテープ起こしと全体の校正をさせていただきました。

私は近隣の市から参加のため、西東京市の地名や固有名詞にうとく、地図を片手に調べながら作業を進めました。でも、今では、旧青梅街道沿いの総持寺さんから橋場辺りはそらんじ、編さんする会の仲間に感心してもらうほど詳しくなりました。皆で一つのものを作り上げる共同作業に参加することができ、とても楽しい2年間となりました。「来たり者」の私を大きな度量であたたかく受け入れてくださった、話者と編さんする会の仲間々に感謝します。ありがとうございました。

〈馬場満子〉

### ●「生きること」の意味を考えました

戦争の荒波を生き抜いてきた女性たちは、思いやりのある優しい笑顔に満ちています。

日本人でも生きることが厳しかった時代を思い出すと、民族に対する理不尽な仕打ちが蘇り感情が高ぶってしまう方、どう生きるか模索しながら、考え、学び、ご自身の人生を切り開いてきた方々、どの方も人生は深く、家族のために生活を支えてきた強さに溢れています。戦後65年、日韓併合100年の節目の年に出会えた女性たちから教えられたのは、平和や人権の大切さと常に前向きな姿勢でした。話者の方々と編さんする会メンバーのお力添えに感謝するとともに、この事業に参加できたことを嬉しく思います。

〈工藤美智子〉

### ●一歩ずつ明日へ

「西東京市の女性には特徴や共通点があるのだろうか」……聞き書きを終えてみての答えはNO。けれど、それぞれの生い立ちを背負ってさまざまな地域からやってきた女性たちの家族やみんなのために暮らしを少しでもよくしていこうという日々のいとなみが、確かにこのまちの歴史を育ててきたのだという発見がありました。その歩んでこられた道の記録に携わることができ、とても感謝しています。

担当した『会活動だより』でカットを描いていた小らの娘は、今はまだこの冊子の意味を理解していないけれど、何年後かにこれを手にした時、語ってくださった皆さんの、そして、編さんした私たちの思いを感じ取ってくれることを願っています。

〈新井由美〉



## ●編さんを終えて

激動の昭和を、この田無・保谷という地域で生き抜いてこられた女性たちの歩みをお聞きするのは、その少し後を歩いていた私ですが、とても興味深いものでした。

私がうかがった矢ヶ崎タカさんは、田無生れの田無育ち、生粋の田無っ子。「私の話なんかでいいのかねえ」と何回もいいながら「多摩弁」で語ってくださったのがとても懐かしい雰囲気でした。何回もお訪ねするうちに、お連れ合いや娘さんとも親しくお話しできるようになったのも嬉しいことでした。

60年この地に住んで、知ってるつもりでいたことが、大してわかっていなかったと、この活動を通じて気付かされました。2年間の活動で恵まれたよい仲間と、さらに学んでいけたらと思っています。

＜木下伸子＞

## ●女性史編さんに関わって

昨年、私はテープ起こしの担当として話者のお話を聞きながら一心にメモをとりました。たまたま知り合いの方だったのでお話の内容がとても理解しやすかったのですが、テープ起こしをしている時に主観が加わってしまわないように気をつけました。話者の方がいろいろなことに前向きに関わってきたことを淡々と話されているのを聞いていると、力を抜いて自然のままに生きてこられたことがとても印象に残っています。テープ起こしは、テープを何度も聞きながら文章にしました。話者が私たちに伝えたいことは何か、そこを忘れないように一字一句語りのままに聞き取ることが大事だと思います。

＜篠通恵＞

## ●お話しをお聞かせくださった方々に感謝申し上げます

力強く己の道を切り開いてこられた方、反対に、ひたすら忍従の道を歩んでこられた方と、皆それぞれ異なる生き方をされてこられたのですが、どの方の人生も本当に驚くほどドラマチックで感動的でした。でも、そこには共通して「女」ゆえに味わった苦い思いや困難が存在していたように思われます。

この聞き書き集が、そうした「女」の思いや、置かれてきた状況、抱えてきた問題を十分に浮き彫りにすることができたかどうか気になるところです。後に続く方たちが「女」の状況を改善するため更なる一歩を踏み出してくださることを願っております。

＜長田律子＞

## ●泣いたこともありました

実は、お話をうかがいながら2回泣きました。もらい泣きでしょうか。話者の思いが伝わってきて涙が止まらなくなりました。丈夫とはいえないご母堂の生前のご苦労に思いをはせ、間を置きながら語ってくださるその姿に、見たはずもないご母堂を彷彿とするのでした。また、前触れもなく逝かれたお連れ合いに対し「もっとしてあげることがあったのに」と無念を吐露されるお声に、胸打たれるのでした。どの方のお話にも最愛の者を慈しみながら生きてきた軌跡がまざまざ刻印されているのでした。微力ながら、そうした思いを少しでも伝えることができたならなんて素晴らしいことだろう。ただただ、そんなことを考えながらの2年でした。ありがとうございました。

＜長瀬由美子＞

## ●人生を語る深みから

この間、初めてお会いした方も多いのですが、長く存じ上げていながらも、初めて個人史をうかがうことになった方もいらっしゃいます。そうはいっても私自身、旧田無市の住民になってまだ20年なのです。お互いがなにかの力によってお会いし、男女平等を目指す活動で結びつき「聞き書き集」という果実となって実を結ぶ不思議も感じます。残念なのは、語ったご本人は了解されても、周囲のご理解が得られず登場ならなかった方もいらっしゃる事です。これからまた、女性たちにより「自覚的に生きる」という課題が残りました。

＜清水君枝＞

## ●仲間を誇りに。つなぎ育てていきたい

お会いするたびにご苦労様、体に気をつけてね、家族を大事にしてねとあたたかい言葉をかけてくださる話者の方々には数々の教えをいただき感謝しています。また、議論を怖がらず、力を出し惜しみせず、困難にもたじろがず向き合い続けてきた仲間たちを誇りに思っています。正直、市民参画でのスタートは不安だらけでしたが、多くの関係者の皆さまにも後押ししていただきここまでこられました。この成果をいかにつなげていくか、また仲間と一緒に考えます。

＜渡辺美恵＞

## あとがき

### 西東京市の女性史を編さんする会

NPO法人生活企画ジェフリーは、平成二一年度西東京市NPO等企画提案事業として主催した「女性史編さん講座」（講師 折井美耶子・石崎昇子）の受講生とともに「西東京市の女性史を編さんする会」を立ち上げ、まちの歴史を学んだり（講師 近辻喜二）、石崎昇子さんには「監修者として有益なご助言をいただきながら編さん作業を進めてきました。」

そんななか、生きた時代を懸命に伝えてくださった話し手と一言も漏らさず聞き取ろうとした私たち聞き手とは、立場は違っても一つの共通した感慨をもったのです。それは、「日常の些事に追われ、いかに対話をないがしろにしてきたか」という愕然たる事実でした。話し手の方々は「今回のように時間をかけて自分自身をみつめ、自分の気持ちを相手に、真剣に、率直に伝えたことがあっただろうか」。そして聞き手も「このように真摯な気持ちで、相手の語りに耳を傾け、受け止め、理解しようとしたことがあっただろうか」と述懐。そして、昭和という時代を生きた女性たちの戦争、家族、教育、いのち、暮らしのお話を聞きながら、脈々たる人間のいのちと知恵のつながりこそ、豊かさの本質であると思えました。

なお、この女性史編さん事業は行政との協働のあり方

に応えたよき事例ともいえましょう。そこには公民館主事として長く深く市民との交流を培ってきた専門性ある職員・岩田波さんの存在と、当時の生活文化課飯島課長の理解と応援がありました。市民と行政が目的を一つに、もてる力を惜しみなく出し合い、尊重し合い、助け合ってきた協働のプロセスは実に厳しくも意義深いものでした。

平成二二年九月、総務省発表の推計人口によると、総人口に占める六五歳以上の割合は二三・一％。特に八〇歳以上の女性人口は、男性二八二万人に対し二倍近い五四五万人とのこと。この数字は人生百年という経験なき長寿社会の到来を予告するだけでなく、女性の高齢者の存在が社会や政治に影響をもつ時代になってきたことを表わしているといえましょう。

こうした社会に呼応するように私たちの女性史編さん事業も本書発行で終わりとせず、次年度は新たな市民も交えて「西東京市女性史研究会」を立ち上げ、これからも引き続き地道に活動していきたいと考えております。今日まで応援してくださったすべての方々から感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成二二年 九月